

【島のくらしの情報】

利尻島（利尻町）

<p>①仕事（収入）の状況</p>	<p>・島には、水産業をはじめとした第一次産業従事者と観光などのサービス業従事者が多くいます。</p> <p>・町では、漁業の後継者になってくれるような人材を求めています。／ このため、後継者育成に対する支援も行っています。</p> <p>●お問い合わせ：まち産業推進課 電話0163-84-2345</p> <p>・このほか、島で働く医師・看護師等を募集しています</p> <p>●お問い合わせ：利尻島国保中央病院 電話0163-84-2626</p>
<p>②住居の状況（貸家、空き家など）</p>	<p>・町内に民間のアパート等はほとんどないため、公営（町営）住宅が整備されています。</p>
<p>③医療環境の状況</p>	<p>・島には、病院、診療所が3か所ありますが、利尻町に中核病院となる「利尻島国保中央病院（医師4名、ベッド数40床）」があります。また島の医療機関で診療できない重大な病気はドクターヘリや北海道の防災ヘリで、島外の医療機関へ救急搬送となります。</p> <p>・歯科診療所が島内に3か所あり、利尻町には1か所の歯科診療所があります。</p>
<p>④福祉環境の状況</p>	<p>・利尻島に特別養護老人ホームが2か所あり、利尻町にそのうち1個所があります。短期入所サービスやデイサービスも行っています。そのほかにデイサービスを行う事業所が1か所あり、在宅介護サービスも利用できます。</p>
<p>⑤教育環境の状況</p>	<p>・町には沓形地区と仙法志地区があり、小学校はそれぞれの地区に1校ずつ、中学校は沓形地区に1校あります。</p> <p>沓形小学校（児童69人、先生等13人）・仙法志小学校（児童19人、先生等8人）</p> <p>利尻中学校（生徒39人、先生等13人）</p> <p>・利尻町神居（かむい）地区に島唯一の高校、「北海道利尻高等学校」があり、普通科と商業科が各1クラス、3学年6クラスがあります。</p>

⑥上下水道・電気・ガスの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の上下水道の普及率は、ほぼ100%です。（一部し尿処理収集を行っています。） ・ガスはプロパンです。（町ではプロパンガスの海上輸送費に関して補助をしています。） ・電気は、島内にある火力発電所でほとんどを賄っており（一部水力及び風力を利用。）、十分な電力供給体制があります。（本土からは、系統が独立しています。）
⑦本土との交通手段（費用、時間、便数など）	<p>【航路】 フェリーを利用 稚内港（最寄駅はJR稚内駅）から利尻島鴛泊（おしどまり）港へ。 ハートランドフェリーで1時間40分～50分（1日2～4便）・大人2,140円（2等：住民割引制度あり）</p> <p>【空路】 千歳空港から利尻空港へ。ANA便で50分（1日1便：季節運航） ※住民を対象とした運賃助成制度あり 丘珠（札幌）空港から利尻空港へ。HAC便で55分（1日1便 ※季節により2便の日もあり） ※住民を対象とした運賃助成制度あり</p> <p>【島内交通バス】 <路線バス>利尻島内を一周する路線バスが運行。（各コース1日4～6便） Aコース：沓形（くつがた）～鴛泊（おしどまり）経由～沓形（くつがた） Bコース：沓形（くつがた）～仙法志（せんほうし）経由～沓形（くつがた） ※このほかに、島内ハイヤー会社があり、レンタカーも各社営業しています。なお、住民の主な移動手段は自家用車で、1家に1台以上の車を所有している家庭が多いです。</p>
⑧島内の交通手段（費用、便数など）	<p>利尻島はぐるりと一周できるので迷子になることは絶対ありません。</p> <p>公共交通機関はバス、タクシーがあります。費用については一般的なものです。</p> <p>島民の方は、マイカー移動がほとんどです。</p>

⑨買い物場所・物価の状況	買い物場所については、地場の食材等については地元商店やスーパーで、日用品等については、北海道大手チェーン店のコンビニやドラックストアがあるので、そこで島民は買い物をしています。物価については地場の商店は若干高めですがコンビニやドラックストアについては本道と差は特にありません。
⑩これまでの移住実績	H26年度の移住者実績は世帯・単身併せて12名となっています。
⑪移住を希望される方の短期滞在、下見に対する支援の状況	利尻町役場の中に定住移住推進の専門セクションをH26年度から発足し、移住希望者にきめ細かな情報提供等を行っています。お試し暮らし体験のほか、H28年度には利尻町移住ツアーを夏と冬にそれぞれ実施し、島の生活環境や仕事環境・観光などを体験、見学され移住推進に繋げる取り組みをしています。
⑫移住にあたっての支援の状況	移住者の支援状況については、世帯で転入された方については、転入奨励金として100万円を支給しています。その他、漁師を目指し移住し新規に漁師になられた方に対しては漁業後継者報償金や漁船漁具のリース補助などを行っています。 ※転入奨励金については5年間在住義務を負うものとする。
⑬そのほか島での暮らしぶりについて伝えておくべき必要な情報	島の暮らしで不便を一つあげるとすれば、悪天候のため航路・空路ともに遮断された時に島外に出られないことぐらいだと思います。長くて2日～3日の欠航で頻繁にはありません。 その他は医療機関・運送会社・コンビニ・ドラックストア・図書館・カラオケボックス・スナック・光回線等があるので、皆さんが思っている以上に不便はないと思います。北海道の中心都市札幌までは飛行機で55分もあれば着きます。